



## Column 韓国ソウルをたずねて...

PD・網野 暁

2003年12月9日～13日の韓国調査は、福田アジオ先生・金貞我先生、そして網野の三人による行動となった。出発前日、ソウルで初雪が降ったと聞き、極寒での調査と覚悟していたが、想像していたよりは穏やかな韓国が我々一行を迎え入れてくれた。

日程の概略は以下の通りであった。初日、檀国大学にて比較民俗学会名誉会長の崔仁鶴先生、檀国大学の姜在哲先生と面談。その後、ソウルの大型書店教保文庫において図像関係書籍の購入。二日目、延世大学中央博物館の館長の白永瑞先生と面談・会食。国立民俗博物館に移動し、見学の後、博物館の張長植先生と夕食を兼ねた懇談。三日目は国立中央博物館を見学、及びミュージアムショップにおいて風俗画を含む図録・基本図書の購入。ソウル市内で韓国伝統芸能の鑑賞。その後、崔仁鶴先生および比較民俗学会の諸先生方とともに会食・懇談。四日目はソウル大学において、農学図書館・奎章閣図書館において司書の権在哲氏の案内で関係資料の調査。最終日はソウル市内の一般住宅街を見学した後、帰国の途に就いた。濃密な日程であったが、事前に金貞我先生が各関係機関と緊密なる連絡を取ってくださったお蔭で、頗る順調に日程をこなすことができた。

今回の調査は主に第一班の目的の一つである「東アジア生活絵引」の韓国版を作成するための基礎的な図書及び資料を調査・収集し、それと同時に本COEプログラムの趣旨に賛同していただける諸研究機関と交流を図るものと理解していたが、十分にその成果をあげることができたと言える。延世大学白永瑞先生をはじめ、お会いした全ての諸先生が快く協力を承諾してくださり、また、基本的な図像関係書籍を購入することができ、そして資料収集の道筋もいくつか新たに思い出させた。スタートしたばかりの「東アジア生活絵引」ではあるが、今回の訪韓を経て私自身その完成に大きな期待を持つにいたった。



ソウル大学奎章閣図書館収蔵庫にて

## Column 東京都写真美術館を訪れて...

PD・富澤 達三

東京都写真美術館は、1995年に恵比寿ガーデンプレイス内にオープンした、日本における写真・映像文化に関する最初の専門美術館である。現在ではCG・バーチャルリアリティなど、90年代に急速に発達した分野も研究視野に入っている。館内には3つの展示室があり、テーマに合わせた常設展示が行われ、地下1階の映像展示室では、歴史的な映像資料から最先端技術による映像まで幅広い作品を鑑賞できる。

資料収集体制は写真を核とし、商業映画・CMとニュースの動画は扱わない。また広告写真とニュース写真の収集も未着手である。このほか影絵・幻燈・鞘絵・ジオラマ・のぞきからくり等、前近代の視覚文化資料がある。写真資料は18,000点に及び、国内の写真家作品を中心に、フィルムからの印画(オリジナルプリント)を作成し、中性紙のマットに収めバーコード管理している。高温多湿の日本では写真の劣化は早く、2年間の研究の末、収蔵庫内の温度20・湿度50%が保存に最適との結果が得られたという。

収蔵庫内部の見学は金子隆一氏(専門調査員)の説明で進み、木村伊兵衛をはじめとする写真家の作品・長崎原爆写真・横浜写真・関東大震災写真アルバムなどを実見した。このほか、所蔵資料の画像検索システムを実際に操作した。タッチパネル式で、ソフトはIBMの特注品であったが、やや使い勝手が悪かった。現在は市販のパソコン・データベースソフトを使用した方が高速かつ安価にシステム構築が出来、時代の流れを痛感した。(2003.12.4 見学)



東京都写真美術館エントランス



金子隆一氏による資料解説